深田公園 鳴く虫地図

鳴く虫といえば、秋ですが、初夏から鳴いているのをご存知ですか。博物館のある深田公園には、毎年たくさんの虫が鳴いて、その存在をアピールしています。初夏（ピンク）と夏（ブルー）と秋（イエロー）に分けて、どのへんにいるかを地図上で示しながら、紹介していきましょう。写真は八木主任研究員にお借りしました。だいたい実物大ですが、ヤマヤブキリとキリギリスとハヤシノウマオイは大きいので1/2にしました。

（大谷　剛：自然・環境マネジメント研究部）

ルー、ルー
リッリッリッリーーー
ジーン、ジーン、・・・・
ジイーッ、ジイーッ
ツルルルーッ
ボーーー
ジッジッジッジッ・・・・・
ジュルルル、ジュルルル
ジーーー
ヒリヒリヒリリー

1 キンヒバリ

体長8mm以下の小さいコオロギ類。酸化鉄の赤茶けたせせらぎに生えているヨシ群落にすんでいる。1匹の鳴き声は鈴を転がしたような「リッリッリッリーーー」だが、多数で鳴くと、ヨシ全体が「リーーーーー」と響いている。

2 マダラスズ

これも体長8mm以下。芝生のような丈の短い草むらで「ジーン、ジーン、・・・・」と鳴く。ここでは収蔵庫棟西側の芝生しか示していないが、博物館の周辺のあちこちから「ジーン、ジーン」が聞こえてくる。太もものまだら模様が名前の由来。

3 タンボコオロギ

15mm程度の中型のコオロギ。深田公園の北端の道路より北の田んぼに多い。たいていアマガエルがそばで鳴き、リズムがほぼ同じなので、紛らわしい。田んぼから「ジッジッジッジッ・・・・・」とアマガエルより高音が聞こえてきたら、この初夏のコオロギだ。

4 ケラ

昆虫界のモグラであり、前足が土を掘り進むように発達し、土の坑道内で「ボーーー」と鳴く。昔の人が何だろうと思って、鳴いている場所を掘ってみると、ケラはさっさと逃げてしまい、後にミミズがうろうろしているので、「ミミズの鳴き声」と間違えてしまう。

5 コガタコオロギ

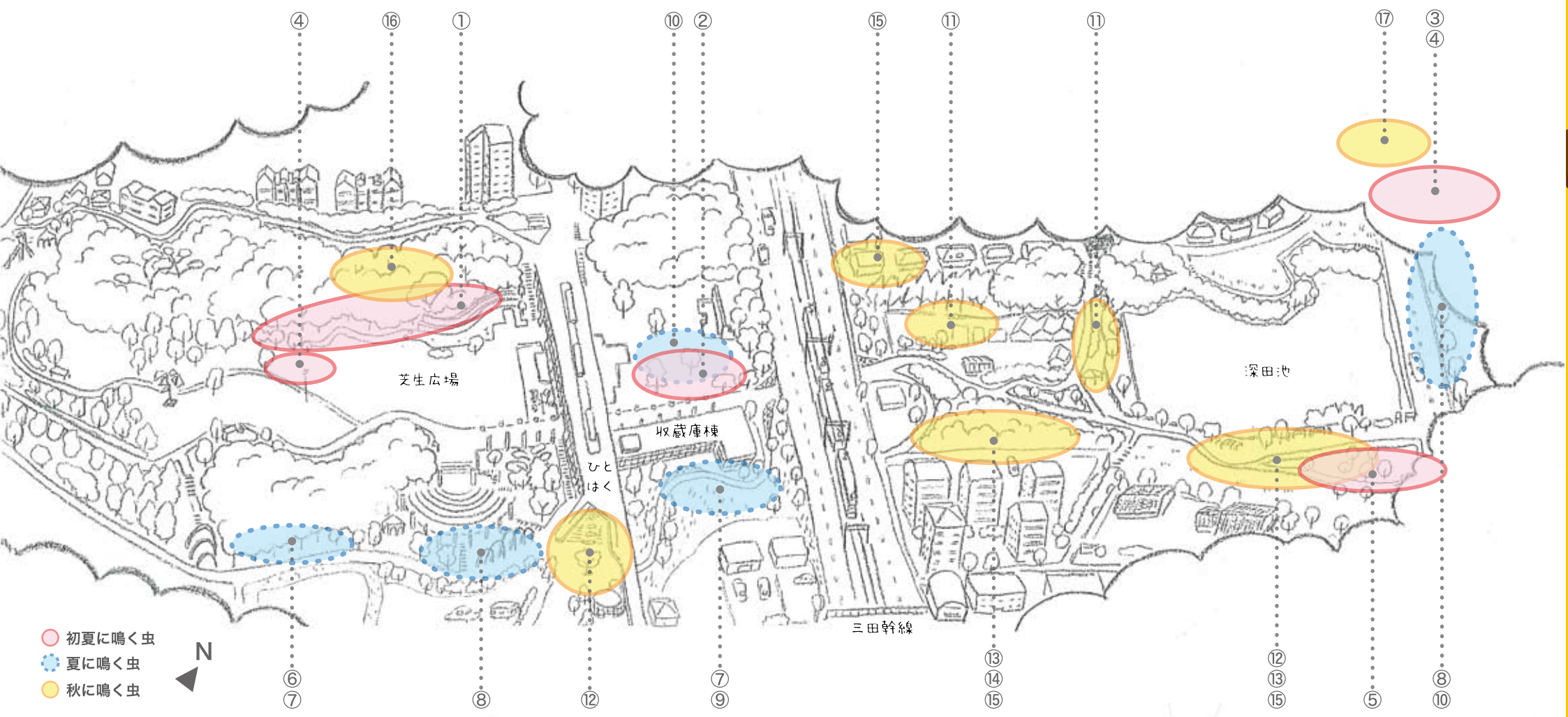
体長12-15mmの初夏のコオロギ。タンボコオロギより乾いた草地にいる。マダラスズと重なる場所もあるが、草地の丈はもう少し高い。「ジイーッ、ジイーッ」と2-3秒間隔で鳴くので、コオロギはリリリリと思っている人には、コオロギを思い起こせない。

6 ヒメギス

体長15-20mmのキリギリス類。50cm程度の丈の草むらの根元で、「ツルルルーッ」とかなりの高音で鳴く。次の鳴き声までに3秒以上かかることがある。体色はコオロギのような黒褐色で珍しいが、ときどき緑色の部分が混じる個体もいる。写真はメス。

7 ヒロバネカンタン

ヒメギスが根元で鳴いている草むらの上部には、カンタンによく似た鳴く虫が「ルー、ルー」と0.5秒くらいの間隔で鳴いている。初夏に鳴いている個体から生まれた子が秋までに成虫に育って、10月にもう一度鳴く。カンタンより翅がやや広い。



8 ヤマヤブキリ

初夏に暗くなった樹木の上から、「ジュルルル、ジュルルル」と鳴き声が降ってきたら、本種にまちがいない。キリギリスほどの大きさ。若虫時代はそっくりだ。他の虫を食べる傾向も強い。夜中にセミの叫びをきくと、ヤブキリかなと想像する。写真はメス。

9 キリギリス

体長45-50mmのキリギリス科の代表種。名前に「キリ」や「ギス」がつくと、キリギリス系を意味する。「チョン、ギース」とゆったりした感じで鳴くが、逃げ足は速い。鳴くのは昼間が主だが、夜もときどき鳴き声が聞こえる。

10 シバスズ

マダラスズと同じかやや小形で同じような環境(丈の低い草地)にすむ。鳴き声は「ジーーー」と単調で不規則に途切れるが、かなり高音で切れ目がはっきりしないので、少し遠くだと、聞き漏らす。高い周波数が聞こえにくい人には苦手な虫かもしれない。

11 クサヒバリ

シバスズより一回り大きいコオロギ科の鳴く虫だが、鳴き声が鳥類のヒバリに似ているところから(実はそれほど似ていない)、草上のヒバリという意味でこの名がついた。夜だけでなく、朝も鳴いているので、アサスズの別名がある。

12 カネタタキ

体長9mm以下の小型のコオロギ系(カネタタキ科)。オスは短い前翅で「チン、チン、チン」と鳴く。メスは翅が退化している。垣根や低い樹木の枝を走り回る。地図では二箇所しか示していないが、あちこちからかすかな鳴き声が聞こえてくる。

13 エンマコオロギ

日本のコオロギの中で一番大きく、正面から見た顔は眉の位置にある白い模様がエンマさまをイメージするが、鳴き声は「ヒリヒリヒリリー」と意外に美声だ。博物館周辺では田んぼの畦のような、やや湿った環境が少ないので、あまり多くはない。

14 ハラオカメコオロギ

体長12mm前後。エンマコオロギより乾いた草むらが好きだが、両種は一緒に鳴いていることが多い。「リリリリリ、リリリリリ」と5音前後で切って鳴く。地図では一箇所しか示していないが、数箇所で聞くことが出来る。

15 カンタン

オスのやさしい鳴き方から「鳴く虫の女王」と呼ばれる。「ルルルルルルル・・・」と切れ目なく続ける鳴き声が能の「邯鄲（かんたん）の夢」のイメージに結びついて命名されたらしい。上のおなか側の写真を見ると、ヒロバネカンタンとは違い、黒い線がある。

16 ハヤシノウマオイ

「スイーッチョン」という鳴き方がそのまま別名になっているキリギリス科の鳴く虫。林床の丈の高い藪で鳴く。文部省唱歌「虫の声」に出てくる。別種のハタケノウマオイは川原のような開けたところにいて「ジッチョ、ジッチョ」とせわしなく鳴く。

17 マツムシ

この種も「虫の声」に出てくる。「チンチロリン」という鳴き声が特徴的だ。博物館周辺では年により多かったり少なかったりする。深田公園ではかろうじて北端で聞くことができた。多数が鳴いているのを遠くから聞くと、金属の細い長い帯を波打たせているようだ。

さぁ、深田公園に行ってみよう！